

平成26年度 第2回 天王寺区政会議

日 時：平成26年11月26日（水）

午後7時～午後8時45分

場 所：天王寺区役所 3階 講堂

出席者

（区政会議委員）

石川委員・出水委員・岡田委員・角野委員・河村委員・神崎委員・栗谷委員
越村委員・湖東委員・酒井委員・田中委員・谷口委員・田渕委員・出村委員
服部委員・原田（久仁彦）委員・原田（恵子）委員・飛田委員・平田委員
三浦委員・南委員

出席21名／定数28名

（市会議員）

足高議員・福島議員

（天王寺区役所）

水谷区長・朝川副区長・川畠企画総務課長・櫻井事業戦略担当課長
樋上PDCA担当課長・小川市民協働課長・大垣危機管理課長
北吉未来人材育成担当課長・寺井保健福祉課長・長谷保健・生活支援担当課長
加守田窓口サービス課長・条川区民の声集約担当課長代理

議題

- (1) 平成26年度区運営方針中間振り返りについて
- (2) 平成27年度区運営方針（素案）について

会議次第

- 1 開会（区長あいさつ）
- 2 議長あいさつ

○樋上PDCA担当課長

失礼いたします。定刻の時刻がまいりましたので、ただいまより、「平成26年度第2回天王寺区区政会議（合同会議）」を開催させていただきます。座って進行させていただきます。失礼いたします。

私は、天王寺区役所PDCA担当課長の樋上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の配付資料についてご確認をお願いいたします。5種類の資料がございます。一つは表題が「平成26年度第2回天王寺区区政会議（合同会議）次第」と書かれたものでございます。次に参考資料があります。3つあります。参考資料1、参考資料2、参考資料3、とございます。最後に配席図ということで、A4一枚がございます。不足している資料はございませんでしょうか。

それでは早速ですけれども、次第にそって進めさせていただきます。

まず初めに水谷区長よりご挨拶申し上げます。よろしくお願いいたします。

○水谷区長

皆さん今日も遅い時間に多くお集まりいただきまして、ありがとうございます。区長の水谷翔太です。今日は第2回の区政会議ということで、皆様にいろいろとお話し

合いいただきたいというふうに思っております。私も区長に就任させていただきまして、今で2年半近く経過いたします。この2年半近く振り返らせていただきますと、さまざまなジャンルでの新規事業にいろいろと取り組んできたんですが、大きく4つ、区民の方々の声の集約、それから区役所あるいは天王寺区のブランドの発信に関する広報、それから天王寺区の未来を担う子どもたちの教育、子育て支援。最後に大河ドラマも2016年に天王寺を舞台として放映決定しておりますので、これについてのシティ・プロモーション。この4つの分野ではある程度の成果を出してこれたのではないかなというふうに振り返っております。一方で例えば地域福祉でありますとか、地域活動支援といった点でまだまだ課題も残っておりますので、今日はその成果と課題について中心的に話ししながら、皆様からのご意見をいただきたいと思います。また後からもちょっとご説明しますが、特に先ほど申し上げたこの4つのうち、区民の方々の声の集約、それから区政につなげていくというプロセスを非常に重要視しています。実際この区政会議でもいただいたご意見から、来年度の予算要求に盛り込んでいる内容も多くございます。例にしますと、体育・スポーツ分野でもご活躍の方のご意見で、天王寺区の予算事業一覧を見ますと、なかなかスポーツに関連した予算がないと。また2020年に東京オリンピックの開催も決まっているので、それにつなげるような何か取組をしてもいいんじゃないかということで、ご意見いただきましたので、我々もちょっといろいろと考えまして、来年度につなげようとしているところでございます。それからこの区政会議の場のみならず、あなたの声をつなげ隊等を通じた、一般の多くの区民の方々から寄せられる声としては、やはり治安面は何か改善してほしいと。防犯カメラについては本当に積極的な拡充をしてくれというお声が多くございますので、これについても年々倍増してきておりますが、また来年度は倍増とは言わず、さらにもう少し上積みが図れないかということで今いろいろと準備しているところです。こういうように区政会議の場、あるいはそれ以外の場でも具体的にご意見を出していただいたら、それは確実に区政につながりますし、つなげてい

くのが私の職責だと思っておりますので、今日も最後まで忌憚のないご意見を出していただけたらと思います。どうぞ今日もよろしくお願いいたします。

○樋上P D C A担当課長

次に議長挨拶となりますが、中野議長につきましては急遽所用が入り欠席ということになりました。皆さんにはくれぐれもよろしくお伝えくださいとのことでしたので、ご報告させていただきます。

それでは栗谷議長よりご挨拶お願いいたします。

○栗谷議長

皆さんこんばんは。本日も大変お忙しい中、たくさんの皆様お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。有識者会議の中野議長欠席のため、私戦略会議の議長させてもらっています、栗谷でございます。本日も地域の団体の皆さんの経験も踏まえて、たくさんのご意見をいただければと思います。また戦略会議のメンバーの皆さんもふだんから集まってまた論議しておりますけれども、今日も活発な意見をよろしくをお願いいたします。それでは今日も最後まで一つよろしくをお願いいたします。

○樋上P D C A担当課長

栗谷議長ありがとうございました。

次に議題となりますけれども、少しご報告だけさせていただきます。本日のご出席の委員の方ですけれども、ご紹介は割愛させていただきますが、出席委員につきましては配席図のとおりになっておりますので、ご確認のほうよろしくお願いいたします。欠席の方は中野議長含めて欠席の旨ご連絡のほう入っております。また本日の区政会議にはお忙しいにもかかわらず、足高議員、福島議員のご出席をいただいております。本日の議題の最後にご助言、ご意見をいただきますようお願い申し上げます。それと本日の会議は傍聴の方もおられますので、後ほどご発言の際には担当者がマイクをまた回させていただきますので、マイクを使って声が通るようによろしくお願いいたします。

それではここからの議事の進行を栗谷議長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○栗谷議長

はい、それでは着席のまま一つ進行させていただきます。

それでは皆様のご協力のもと、本日の会議も有意義なものとなりますよう、進行していきたいと思いますので、どうぞご協力のほどよろしくお願いいたします。

それではまず本日の流れを簡単に説明させていただきます。お手元の資料の平成26年度の区運営方針の中間振り返りについてと、平成27年度の区運営方針素案についてですが、この二つの議題は関連しますので、一括してとり行うものとさせていただきます。

初めに区役所よりポイントの説明をしていただきまして、その後質疑・応答、意見交換を行いたいと思います。午後8時45分ごろに質疑・応答は終了したいと考えております。その後足高議員、福島議員よりご助言・ご意見をよろしくお願いいたしますと考えております。皆様のご理解とご協力を一つよろしくお願いいたします。

それでは区役所より説明をいただきますが、意見交換等で多くの時間をとりたいので、ポイント等を絞り込んで簡潔に一つよろしくお願い申し上げます。

○樋上PDCA担当課長

それでは区長からご説明をさせていただきますけど、ちょっと私から先ほど参考資料1とか2とか言いましたけども、どういう資料かというのをもう少し細かく説明させていただきます。

まず手元の参考資料1というのが、26年度天王寺区運営方針中間振り返りということです。中間と言っていますが、これは8月末時点の実績とか、今どういうふうな動きになっているかということを、ちょっと何枚かめくっていただいたら、経営課題1とかあるんですけども、大変細かくて申しわけないんですけども、8月末時点の天王寺区の実績とか、目標の達成状況ということを書かせていただいています。

ただ何度も言いますけども 8 月末時点なんで、じつは目標の達成状況は今何パーセントいったかとかいうのはまだ未測定の部分が多いんです。区民の方がこれをどう理解しているかというようなことのモニターで、今後数値等の把握をして、また最終的には年度末のほうでわかっていくというふうな形になっております。これが運営方針の中間振り返りということで、繰り返しになりますが 8 月末での数とか書いております。

参考資料 2 ですが、これが平成 27 年度天王寺区運営方針素案ということです。これは 11 月 7 日時点と書いておりますように、11 月 7 日時点での天王寺区が今考えている運営方針、来年度の主な取組の素案という形になります。もちろん今後ご議論とか、いろいろとまた予算編成の中で変わっていくこともあろうかと思えますけども、7 日時点の素案ということで方針を記載しています。この中にもちょっと参考に、さっき言いました 26 年度の中間的な数字なんかも入れさせていただいています。今言いましたこの参考資料 1 とか 2 というのは、これは全区役所どこの区でも作成しているものです。これについてはホームページで公表している資料です。もう一つ A3 版の横長の参考資料 3 というのを見ていただきたいと思います。大変細かくて恐縮なんですけども、これが天王寺区事業評価シートといいまして、天王寺区の平成 26 年度、今現在取り組んでいる事業の全て、この庁舎管理がどうやとかいうことも含めた全部、運営方針にのっていないことも含めて、これを天王寺区の事業評価シートということで、今年天王寺区独自に作成した資料でございます。繰り返しになりますが、区役所が予算計上しております 26 年度の全ての事業について、取組の状況とか、予算、また区民の方からいただいたご意見、そしてそれを踏まえた今後の方向性ということでお示しした資料です。これら 1 から 3 の資料は大変細かいものになっておりまして、全てを説明いたしますと、質疑で多くの時間とりたいのになくなってしまいますので、説明は控えさせていただきますけども、こちらもお覧の上ご意見等よろしくお願いいたします。

もう一つ次第のほう見ていただきたいと思いますけども、天王寺区合同会議次第、これ

一枚めくっていただいて、委員名簿がついております。その右に天王寺区の平成27年度天王寺区運営方針（素案）概要ということで書いております。これは11月7日時点で、先ほどの参考資料2の主なポイントをまとめさせていただきました。こちらを中心に、今から、区長のほうからご説明をさせていただきます。区長よろしくお願い申し上げます。

○水谷区長

その前にまず申し上げておくべきは、この膨大な資料は事前に今日来ていただいている委員の方々には配って読んでいただいているということですので、これをちょっと事細かに全て説明していたら時間が幾らあってもきりがございませんので、今課長のほうから27年度の運営方針の素案を中心ということでありましたけれども、議案的に中間の振り返りがあって、来年度何をするのかというのを語らうのが一番わかりやすいのかなと思いますので、参考資料1と上に書かれている中間振り返りの総括という部分と、その後に27年度天王寺区運営方針（素案）概要と書かれているこの2枚をごらんいただきながら、私の話を聞いてくださればと思います。

それでは説明に移らせていただきたいと思います。冒頭もちょっと述べましたけれども、私就任させていただきまして、区政改革を進めていく中で2年あまりが経過いたしました。この2年あまりたった今強く思うのは、私もかつてNHKの記者ということで、その職を辞してこの区長についたと。今まで続けてきたその行政をそのまま踏襲して仕事するだけだったら、別に私が仕事する意味っていうのはないんですね。最近結構報道等でも私も含めて公募の人材に関しての厳しいご指摘、ほとんどが正論ですけども、それが強くなってございます。そうした中でよくも悪くも萎縮してしまって、大過なく自分の任期を終えるというモードに入られる方も、もしかしたらおられるかもしれませんが、それをするのは言いかえれば何もチャレンジをしないと。外から来て何か新しい価値を提供するのが我々の仕事なんだけど、それを放棄してしまうという意味で私は絶対的にだめだと思っておりますので。この2年あまりたった

今、初心にかえて、今までの行政ではできなかったこと、私であればできることっていうのは何なんだろうかということを強く常に自分自身に問いかけながら、自分のやれることを精いっぱいやってまいりたいというふうに考えております。そういう意味で今年度重点的に取り組んだことということで、各論ちょっとご説明してまいりたいと思います。

参考資料1の二つ目のまるの重点的に取り組んだ主な項目というところをご覧ください。まずこれは就任の年度から取り組んでいることですが、区民の声の集約プロセスの強化ということを重視しております。具体的には、区政運営に係る意見評価をいただくために、天王寺区民の方、一対一で直接に対話を行うあなたの声をつなげ隊というチームをつくりまして、それを通じた意見聴取というものを行ってきています。今年の9月末時点で、1,854件のご意見をいただいております。これらのご意見は聞いて終わりというわけではなくて、今日お配りしている資料の中にも、天王寺独自の資料ということでご紹介しましたが、この参考資料の3ですね、天王寺区事業評価シートというところをぱらぱらと見ていただきますと、それぞれの事業評価に区民の方から具体的にこういう意見が上がったという文言が盛り込まれているんですね。これ非常にこまごまとした資料なので、今この場でお読みいただくのも大変なので、ちょっとイメージで説明しますと、例えば放置自転車対策の事業について啓発物品をいろいろと配っていると。だけど本当にこれが効果があるのかとか、ないのかとか。そういう区民の方から直接に具体的にいただいたかぎ括弧をもとに、それを参考として来年度の予算事業を組み立てていくということを今やっております。結構区民の方にご意見を伺うときに、ほかの区とか所属なんかでもアンケートとかやっているんですけども、ある事業ピックアップして、その事業について知っていますか、知ってないですかっていうことは、よくお聞きするんです。だけど例えば知ってないっていう回答をされた方が80%だったからといって、その事業は見直そうというふうになるかっていったらならないですね。認知度が低いからより認知してもら

えるような広報を強化しようという結論に至るだけです。だけど、いろいろな事業をやっていく中で、これはやはり不用品な事業だから見直してその財源をほかに使うべきだという、そういうやはりPDCAサイクルを回していくのが理想であって、それを実際にやろうと思ったら、関心があるかないか、自分がこの事業必要か必要じゃないかというところまで踏み込んで聞く必要があると考えております。そうした考えのもとで、今年度はあなたの声をつなげ隊で1,854件の意見聞くときにも、ほとんどのジャンルに分けて教育とか福祉とか子育てとか、それぞれの事業でつなげ隊の隊員が、区民の方にこの事業はあなたは関心があるかないか、そういうレベルまで踏み込んで聞いてくれということで、いろいろとかぎ括弧を集めてまいりました。そのかぎ括弧が、この事業評価シートの中にも盛り込まれておりまして、後に述べます27年度運営方針の柱にも活かされております。

またちょっと視点を参考資料1のところに移していただきたいと思います。二つ目の点なんですが、区民に親しまれ読んでもらえる広報紙ということで、今年の5月から天王寺区の広報紙を大々的にリニューアルしております。私自身もこうやって仕事させていただく中で、区民の方、あるいは区外の方、ついこの間ちょっと長野県のほうでシンポジウムに出席することがあったんですが、非常に驚いたのは北海道とか東京の方が天王寺区の広報紙ってすごい変わりましたねと。今ちょっと大学院でその研究論文書いているんだけど、どういうふうに変えたかちょっと取材していいか、みたいな、急遽インタビューが始まったりするぐらい、非常に全国的にも好評を得ているのかなというふうに思っております。実際手にとって読んでいただくのが一番かと思いますが、5月号は表紙を写真1面使うと。その写真でちょっと一見するだけでは何の写真かわからないような、ちょっとデザインを凝らした写真を使うことによって、日ごろ広報紙を読まない方からもアイキャッチをさせていただいて、実際の購読につなげていくという趣旨なんですが。そればかり続けていくと、アイキャッチを狙っても飽きられてしまうということもありますので、9月号からはちょうど大坂の

陣400周年というタイミングも迎えておりましたので、真田幸村の赤いかぶとに変身する広報紙というものをやらせていただきました。これも大変好評で、実際発刊する前から区民の方から、あの広報紙はどこで入手することができるのかという問い合わせをいただくなどしております。これについてはアイデアを枯渇させてしまったら全てが終わると思っておりますので、毎月幾度とない編集会議を私自身も入って広報担当といろいろとかんかんがくがく議論しながら、紙面の編集に当たっております。

続いて見ていただきたいんですが、日本一の文教「都市」をめざした人材育成の取組と海外人材の活用ということで、教育・子育てに関するさまざまな取組をやっております。まず今年度からスタートしております、子育てスタート応援事業という取組があります。これどういう取組かと申しますと、今年度天王寺区で生まれた子どもさんのおられる世帯に、1万円分のクーポン券をお配りするという事業です。そのクーポン券はどのようなものに使えるかといいますと、インフルエンザとか水痘といった、今公費が充てられていない任意予防接種、完全に自己負担になっている予防接種というのがあるんですね。これに使っていただくことができたり、あるいは英語とかスポーツとか知育遊びといった子どもの成育に大きくかかわるようなそういうサービス、あるいは一時保育、病児保育といったサービスに使えるようになっております。これをするに当たっては、非常に大阪市役所内部でもさまざまな議論がございました。といいますのも、幾ら天王寺区が天王寺区という一つの単位とは言っても、一応公式的にはこの大阪市内で一つの自治体の単位なんですね。ですから、例えば天王寺区だけ任意予防接種が少し安くなるということをしてしまうと、大阪市全体としての公平性を棄損してしまうということで、さまざまな議論ありました。しかしながら、大阪市260万人いると。区も24あると。天王寺区みたいに子どもさんが多い区もあれば、お隣の西成区みたいに高齢化率高い区もあると。区ごとにやはりそれぞれの人口の特徴であるとか、そういう性質というのは変わりますから、その性質に応じて施策を立案して実行していくということは大切じゃないかということで、いろいろとかんかん

がくがくしまして、今回子育てスタート応援券の発行に至りました。実際これ券を発行するに当たって、天王寺区みたいに行政区で発行した事例というのはないんですが、例えば東京都の特別区ですとか、一般の自治体等で発行した事例はあって、なかなか親御さんからの申請率が伸び悩んだりとかして、事業再構築に至ったケースとかもあるんですね。ですからいろいろと心配もしていたんですが、弊区の場合例えば対象の世帯に郵送で事業の通知をする、ですとか、乳幼児健診等、親御さんが多く集まる場で周知をするなどそういう地道な努力を続けまして、今年度生まれた子どもさんの親御さんのほぼ全てが現時点で申請をしているという状況で推移しております。

続いて英語による即興型ディベートスクール事業というものも進めております。これは月2回で年12回の頻度でやっているんですが、天王寺区内の中学生のうち、英語をしゃべれるようになりたいと、英語で討論できるようになりたいという志を持ったお子さんに参画いただいております。これはつなげ隊等をやっていても区民の方からいただくお声としては、これはレベルの高い子というか、優秀な子だけが参加してしまうと、優秀な子のためだけの施策になってしまうんじゃないかというご指摘です。しかしながらふたを開けてみますと、プライバシーにも関することなのであまり事細かに申し上げられないんですが、私の実感にして半分ぐらいの子がなかなか塾に通えないという背景であったり、英語の成績がなかなか伸び悩んで困っているという、どちらかというと英語に課題を抱えている子のほうが多くて、実際そういう子たちにも対応できるように授業もクラス分けをして、できる子はどんどんディベートの力を鍛えていただいて、できない子はどういうふうにしたら英語で自分の意見を正確に伝えることができるのか。その基礎から学んでいただくということになっております。

続いてお年寄り一人一人の命を守りぬく地域福祉というところをご覧ください。去年度から独居高齢者等見守りサポーター事業という事業をやらせていただいております。天王寺区は高齢化率こそ大阪市、国の平均を下回っているんですが、全体の高齢者のうちの39.8%がおひとり暮らしをしているという状況がございます。この3

9. 8%という数字はどういう数字かと申しますと、国の平均が24.8%ですから、国の平均よりも極めて独居高齢者世帯が多いという状況になっているわけです。実際こういう高齢者の方々というのが、オートロック付きのマンション等に住んでいて、なかなか地域からも隔絶されて、ひとり孤独に世を閉じていくというケースも、いわゆる孤立死という問題も重くなってきておりますので、実際こういった方々に、例えば食事サービスのような地域とのふれあいの場にきていただくとか、体力的になかなかそういうことに参画することが難しい方におかれては、月1回我々職員と、あるいは地域の町会の方々民生委員さんと連携して見守りをするということを今進めております。個人情報地域の共有というところにつきましては、実際対象の方から定期的な見守りをしてほしいという積極的同意をいただく必要がありますので、その同意をいただきながら今後もこの事業を進めてまいりたいというふうに考えております。

続いて、災害リテラシーを向上させる事業の追求というところで、防災対策については、備蓄物資の拡充であるとか、単なる避難所の量的な拡充だけではなくて、妊産婦の方に使っていただける避難所とか、福祉用の避難所とかそういうものも含めて充実してきているんですが、特に象徴的に捉えておりますのが、そこに書いております家具転倒防止器具取付事業です。阪神大震災の教訓も受けまして、実際あの震災でも亡くなった方の大半が、お部屋の中で家具等の下敷きになって死んでいくということが多くございましたので、それを二度と起こさないという意味も込めて、実際に家具を固定する器具を取りつける、その作業を行政が責任持ってやらせていただくということを進めております。これまでも家具転倒の防止をすることの大切さを訴えるワークショップ等を区役所で実施していたんですが、なかなかその時には皆さん納得されても、家に帰って家具を固定しようというアクションに移らないと。そういうことがアンケート結果等からも明らかになっておりましたので、特にいわゆる災害時要援護者になるとされているお年寄りの方、障がいのある方については、行政のほうで完全に家具の固定をさせていただくということで。今まででこの10月末時点で261件

の家具の固定に当たってきております。この数字をどう評価するかなんですが、まだまだ全体の災害時要援護者の数からいきますと、この261件という数字もまだまだのところがありますから、今年度後半に向けてもっと申請のほう多くいただいていく。そのため我々区役所も対象世帯への営業活動を頑張らないといけないなというふうに思っております。去年度数が伸び始めたのは、あなたの声をつなげ隊等が食事サービスとかの場にも出向いて、その場で出前受付といいますか、その場で対象の方から申請いただいて契約完了するというのをやってきている。それが功を奏して伸びていったということもありますので、今年度もそういった手法をとりながら、この件数をもう少し増やしてまいりたいと思っております。

続いて戦略的なシティ・プロモーションの推進であります。ちょうどこの天王寺真田幸村博というものに着手して、5月の第1回目が終わった段階で、ありがたいことに2016年のNHK大河ドラマで天王寺区を舞台とした真田丸というドラマの放映が決定いたしました。真田丸は、この大坂の陣で活躍した武将である真田幸村が築いた砦なんですが、実際に天王寺区の真田山地域にあったとされておりまして、全国の歴史ファンを中心として、これから天王寺区に観光客が押し寄せる兆しは十分にあると。それを機に天王寺区の魅力を全国・全世界に発信しようということで、今天王寺区では幸村博を中心としたシティ・プロモーションの取組を強力に進めてきております。実際にこの5月と11月に2回幸村博開催させていただきまして、3万人の来場者を得ることができました。この数字なんですけども、実際5月の天王寺公園で実施したときはゴールデンウィークの真ただ中というところもありまして、ゲート前が長蛇の列ができて最長で1時間待ちぐらいの状況になりました。あまりにもお客さんを待たせ過ぎてしまいましたので、それについては今後の課題というところもあるんですが、うれしい悲鳴といいますか、これだけ多くの歴史ファンの方々が天王寺区に注目いただいたというその成果は大きいのかなというふうに思っております。他区のほうでもいろいろなイベントやっております。そうした中でこの3万人という数字

よりも多い数字を計上しているところも多々あります。区民祭りでも4万人きたとか、そういう公表をされている区もあるんですが、なかなかその区民まつりとかですと、人々がこうやって入りまじりますので、正確に何人きたかカウントできないんですね。だから大体前例踏襲で大体これぐらいの数字だろうということで、数万人で出してしまいうことも多いんですが、今回2度ほどやらせていただいたイベントというのは入場に当たって関所が完全にあります。天王寺公園にも入場ゲートありますよね。そこで正確にカウントしておりますので、より実像に近い数ということで3万人と。ですから実感としましては区民祭りも含めて、他区でやっている事業の中でも極めてトップクラスの集客が。しかもこれは区内のみならず区外からも多く引き込んで、地元経済の活性化に資することもできたのかなというふうに実感しております。

続いて新たな財源の確保ということで、区役所の所掌の事業を回していく上で、とても税財源だけでは厳しい状況でございますので、新たな財源の確保ということでいろいろと取組を進めてきております。ここには書いてないんですけども、先ほどの幸村のつながりでいいますと、真田山地域にかつてあったとされるその真田丸という幸村の砦、これをジオラマで復元するというプロジェクトを全国から寄附を募って進めてきておりまして、それ以外にも寄附の収受というものは積極的に受けておりまして、例えば区役所の前のももてんちゃんのオブジェですとか、区役所1階にあります、すべり台、これはライオンズクラブさんから。それから子どもたちに親しんでいただけるような絵本、これは理容組合さんから。区内のさまざまな団体等からいろいろと区役所の資産を充実していただいているところでございます。そうした寄附・寄贈の収受というところ以外に、区役所の資産を活用した新たな収入の確保に向けたチャレンジも進んでおります。その象徴的なのがこれテレビや新聞等でも報道していただきましたけれども、この3階区役所講堂を使った人前結婚式の事業でございます。ちょうど皆さんも何度もきていただいているように、ここの区役所講堂、非常に趣もございますので、若いカップルで天王寺区に愛着のある方、あるいは結婚を機に天王寺区

に引っ越してみたいという方々に、天王寺区ってやっぱりいい区だなと実感していただけるような結婚式を開いていただくと、そういう取組を今進めているところです。

振り返り進めてまいりましたけれども、続いて27年度の運営方針の素案ですね。こちらのほうちょっとごらんいただきたいと思います。お時間もちょっと限られてきておりますので、簡潔に進めてまいりたいと思います。基本的にはこの27年度やることは、何か新しいことをこの27年度にあたってやっていくというよりは、26年度までにさまざまな新規事業を立ち上げてきましたので、それを軌道に乗せるということと、それでは満たしきれなかった部分を補完するということで考えております。

まず一つは、区民の声集約プロセスの強化。これは先ほども申しあげましたようなつなげ隊、あるいは広報の強化というところを、区民の方々からさらにご意見いただき、宣伝させていただこうという取組です。それから日本一の文教「都市」をめざした人材育成と、海外人材の活用というところですが、こちらについては新たにスポーツを通じた人材の育成という項目を盛り込みたいというふうに考えております。これはまさに区政会議でも確か真野委員からご意見いただいたところだったんですが、文武両道という言葉もありますように、ディベートですとか、英語といった部分のみならず体力ですね、そうしたところでもすぐれた人材を出していきたいということで、ちょうど天王寺区内のスポーツそれなりに盛んなのですが、いろいろとリサーチしていきますと、なかなか公式試合で勝ち星が少ない野球部とかそういうのが出てくるんですね。見たら連敗記録高野連の公式記録の中では日本ワーストワンの学校があったりとかしてですね。逆にそういうところに、てこいれすればするほど、一位はそれ以上のびしろないですけども、最下位というのはまだまだのびしろありますからね。どんどん伸びていきますし、彼ら自身のやりがい、手応えにつながっていくんじゃないかなと。またそういう野球部に所属している生徒さんだけでなく、天王寺区内の小学生とか、中学生といった生徒児童さんにもスポーツに親しんでいただけるような取組を進めてまいりたいなと思います。具体的には何をするかと申しますと、ちょっ

と今水面下でいろいろと当たっているんですが、ちょっとまだ名前は出せないんですけど、全国的にも非常に有名なスポーツ選手の方が、どうしても天王寺区で子どもたちのスポーツ教育のために一肌脱ぎたいと。複数手を挙げてくれておりますので、そうした方々を何としてもお呼びして、天王寺区のスポーツ教育の底上げに活かしていきたいというふうに準備しております。

続いて経営課題の3なんですが、お年寄り一人一人の命を守りぬく地域福祉ということで、高齢者見守りサポーターは継続的に、これは特に地域の方々からのご協力というものが非常に要になってきておりますので、地域の方々が本当にご負担ない形で一番やりやすい形で区役所がサポートさせていただいて、進めてまいりたいというふうに思っております。続いてちょうどこの春に大阪市営バスの路線再編がありました。その路線が非常に一部地域の方々、あえてちょっと固有名詞出しますと、聖和地域の国分町付近ですとか、大江地域の下寺町付近の方々にとっては非常に利便性が悪いということで、区役所のほうにもさまざまなご意見をいただきました。特に今課題として残っている地域でいいますと、この大江地域の下寺町付近のところなんですね。ちょうどここは天王寺区の中央部に行くにあたって、学園坂にも象徴されますような非常に高低差があるということで、そこに住んでおられるお年寄りの方とか障がいのある方は、病院とか区民センターに行くにも大きな負担があるという現実がございます。じゃあそういった現実を解消するために区役所として何ができるかということで、この間当該地域の方とも広くお話し合いをさせていただいたんですが、だんだんという措置が必要かということも一つに収れんしつつありますので、それをもとにちょっと来年度予算要求させていただいて、なるべく早期にここの交通難を解消してまいりたいなというふうに思っております。

続いて経営課題の4、多くの方の災害リテラシーを向上する事業の追求ということですが、来年度天王寺区内の小校区単位で地域防災計画を策定することになっております。やはり防災計画といいますと、市全体とか、そういう大きな規模でイメージ

されることも多いんですが、実際に住んでおられる方からすれば小学校区単位ぐらいの規模の中で、どこに逃げて、どういうふうな備蓄をすれば自分の命が助かるのかというところが一番喫緊の課題だと思いますので、まさに喫緊の課題を解消するような地域防災計画を策定してまいりたいなと思います。それから冒頭も申しましたけれども、防犯カメラの公設置については、去年度よりももう少し増やすことができないかと。また家具転倒防止器具取付事業については、これ全体の対象からすればまだまだ普及率足りないというふうに思っておりますので、より一層営業活動徹底して、天王寺区内の災害要援護者の方の住宅はほとんど家具の転倒防止がなされているという状況にもっていききたいなと思います。

それから経営課題の5、戦略的なシティ・プロモーションの推進ということですが、幸村博については継続的に開催するとともに、天王寺区に大河ドラマ効果も相まって、多くの歴史ファンの方が訪れることが今後想定されます。そうした時にせつかく天王寺区に来ていただいて、もちろん現段階でも例えば安居神社さんとか三光神社さんのような幸村を実感させるような史跡があるわけですが、よりそうした幸村を実感させるようなモニュメントは多いほうがいいだろうということで、真田幸村回遊ロードサイン、観光マップですとか、実際に真田丸があった場所での顕彰碑ですとか、そうしたもののについて、整備を進めていきたいということで。これは天王寺区にこれまで配分されてきた予算とはまた別建てで、特別な予算をいただいて設置することができないかということで今準備を進めております。

最後に経営課題の6で、市政改革プランに基づく大きな公共を担う活力ある地域社会づくりということで、地域活動協議会の活動支援というものを進めてまいりたいと思います。これについては24区はもとより、市内部でも今後地域活動協議会をどう支援していくかという議論が、今もなされております。私も先日ちょうど天王寺区役所で近隣の区長など集まっての意見交換会がありましたので発言させていただきましたけれども、そのポイントだけ申しますと、やっぱり地域の現実として天王寺区内

若い人が多いとはいえ、地域活動に関してやはり高齢化の問題とかも非常に深刻化してきているというところがございます。高齢化が進みますと、やはり例えばお祭りをするにしても夜警をするにしても体力を伴いますので、なかなか負担も大きいというところありますし、細かな会計処理するにしてもなかなかパソコンが全ての方が長けているわけではないので、そうした状況の中で一朝一夕に地域に自律を求めるというのも厳しい状況なのかなというふうに私も思っております。この点について、やはり私も絶えず地域の方々とお話し合いさせていただいておりますけれども、その地域の実情を市全体の議論にも伝え活かす中で、少しでもよりよい支援のあり方というのを模索していきたいと思っておりますし、一方で地域の方からしたら、例えば会計報告とかもうちょっと簡素化できないのかとかよくいただくところでもありますけれども、なかなかやっぱりコンプライアンスが強く求められる時代状況にあって、住民監査請求とかも多くきておりますので、やはり押さえるべきところを押さえたその支援というものは、行政的に譲れないラインというのもありますので、そうしたところもお伝えしながら折り合いのつく地点といいますか、適切な連携のあり方というものを今後も模索していきたいなというふうに考えております。

以上述べてまいりましたけれども、基本的には来年度はこれまでやってきた事業を画竜点睛するということと、スポーツ分野、防災分野でいまだできてないところとかがございますので、それをもって区政改革の補完とするというところで締めてまいりたいなというふうに考えております。どうもご清聴ありがとうございました。

○栗谷議長

水谷区長ありがとうございました。それではただいまの説明についてご意見・ご質問をお願いいたします。また参考資料1から3の資料もご覧いただきまして、ご意見もよろしくお願いいたします。それでは発言される方は挙手にてよろしくお願いいたします。

○南委員

すみません。子供会の南です。参考資料の3番で、一応コミュニティ事業ですかね、20ページかな。54番子ども育成を通じたコミュニティ振興ということで、今まで予算として47万ですか、26年度は。27年度に関しましては24万に減らすということをお聞きしまして、こういう資料はちょっと前にもらって読まさせてもらいました。区民の声を踏まえた今後の方向性で、上記の選択理由として一応は皆各事業に参加したらよかったというふうな意見をいただいております、子供会としましては、たこづくり、書き初め、こども大会、こども運動会、この4事業をさせてもらっているんですけども、これもみな区長さんにも来てもらってございましたけども、コミュニティ育成事業として実施しているのを、事業の中でこの分野の実施事業数は他分野に比べ多いことから、事業数の縮減を図ることとしております。私子供会として、子どもの育成として、僕自身は何ぼでも多ければよいと思ったんですけど、反対に減らさなアカんと。それはいろいろお金のこともあると思いますけども、それ一応区長さんとしてどうかなとお聞きしたいなと思っております。

○水谷区長

そうですね。やっぱり全体の予算制約というのは子どもの育成を通じたコミュニティ振興のみならず、今厳しくあるのはこれ現実かと思えます。ですので、子供会のかかわってらっしゃる事業以外でも、今回前年度よりも少ない予算の中で前年度事業に近い形で維持するにはどういう工夫ができるかということで、いろいろと知恵を絞っていただいている部分もあります。今回についても、確かに南さんおっしゃるように、子どもに対しての教育体験機会というのは多ければ多いほうがいいわけですが、どうしても予算制約というものがありますので、その予算制約の中でちょっとコミュニティ協会さんのほうにもご相談いただきながら、従来通り、あるいは従来に近い形での事業の維持をお願いできないかということで、今回区政会議やらせていただく前にちょっと私のほうから市民協働課のほうに指示させていただきまして、ちょっとご相談のほうをさせていただいたかと思っております。

○南委員

すみません。ご相談してもらったなと思うんですけど、岩上さんですかね。一応区長さんが相談してもらったという話は、僕自身は知らないんですけども、ただ僕はそちらのほうから聞いたことだけで、一応僕自身はできればそのままいきたい。でも予算がこないなるから減らしてくださいと、事業をとという話を会議の後でさしてもらった。

○小川市民協働課長

そうです。

○南委員

これ個人的な話で、皆さん今区政会議だから皆さんはどうかなと。一遍聞かせてもらって、もし変えられるもんやったら変えてもらいたいし、それで予算がこうやからしやあないないうんやったら、このままでいってもらわなきゃあないと。皆さんがどう個人的な意見だけじゃなしに、せっかくこういう区政会議という肩書がある限り、皆さんの意見を聞いてどうでしょうかいうことを手挙げさせてもらいました。すみませんけど議長よろしく。

○栗谷議長

はい、南委員ありがとうございます。そのほかの皆さん各諸団体の方いかがでしょうか。今年から来年、次年度へと予算も削減等いろいろあるかと思いますけども。

じゃあ原田委員。

○原田（久仁彦）委員

戦略委員の原田と申します。今南さんからご指摘を受けた部分で、ちょっと端的にお尋ねしたいんですけども、できるできないを答えていただきたいんですけども、これで変更での予算をお出しいただけてますと。今まさに南さんがおっしゃったように、こういう場面でいろんな提案をさせていただくことによって、多少なりともその変更案とか取組を変えたいということはあるんでしょうか、できないんでしょうか。

○水谷区長

できます。ただ言えば何でも通るということはないです。やっぱりその合理的理由があるということが証明されて、受けとめる私としてもこの意見については合理的だという判断ができた場合は修正しますと。ただその場合、やっぱり修正理由というものは明示する必要があります。できる場合はできる理由を私のほうが明確に述べまし、できないときはこうこうこういう理由だからできませんということで、お返しさせていただきたいと思います。

○原田（久仁彦）委員

もう一点ですね、当然できるできない施策の方針というところもあるんだとは思いますが、当然予算要求というものがあるので、前年対比でここまできちっとつくっていただけてますから、逆に言いますと前年対比で例えば30%以上下がったことに対しては、いろんなコメントをつけてあげるとかいうようなことがあれば、もう少し減らされたほうも当然こういう予算がない時期ですから減るの当たり前という部分をきっちり組み込んだ中で、大きく減った理由というのが反映されてたらわかりやすいのかな。

○水谷区長

お答えになっているかどうかわかりませんが、天王寺区が所管している事業というのは、区単独でやってる事業もありますけど、パートナーみたいなものがある事業もあるんですね。それが例えば委託企業であったり、連携先の団体であったりとか。大きな事情変更がある場合は、こういった書類をお出しする前に、やはりそれは一つのマナーとして相手先の企業団体等にはこういうふうに事情が変わりましたということとはちゃんと説明するということは徹底させていただいております。

○原田（久仁彦）委員

ありがとうございます。

○栗谷議長

はい、その他ありますでしょうか。

○小川市民協働課長

委員長すみません。市民協働課長の小川ですけど、南会長のご質問に対してですけど、コミュニティ育成事業ということで、この番号でいいますと、区民まつりの50番から区民ギャラリーの55番までの事業をお尋ねいただいております。コミュニティ育成事業ということで、一括して予算を組んでおりまして、整理が終わったからということで、このコミュニティ育成事業の中でいろいろ内容を見ていった結果、子供会の子ども育成を通じたコミュニティ振興について、予算のボリュームがちょっと多かったのもので、ちょっと今回は減らさせていただこうかなということで、ご理解いただきたいことをご説明した次第でございます。

以上です。

○栗谷議長

その他。

○水谷区長

今の言い方だとちょっと南さんに申し訳ないなと思うんです。僕が直接事前にご説明に行けず、それは申し訳なかったと思うんですけど。確かに事業規模であるとか、事業の金額等で他事業と比較して削減したというのもあるんですけども、全体としてやはり他分野で必要経費というのでも重んできておりますので、そうした中でちょっと厳しめに前年度の実績にも鑑みて予算削減させていただいたところが実情で、この事業をやってらっしゃる内容そのものについては、私も先ほども申し上げましたように、子どもの機会とか多いほうが本来はいいと。ただやはり予算制約というのがあるところで、ちょっと申し訳ないけれども、この点だけのご容赦いただけたらなということでご説明させていただいた通りです。本当にそこは申し訳ないです。

○栗谷議長

はい、じゃあどうぞ。

○角野委員

角野と申します。ずっとこう資料を非常にたくさん並んでざっと見させていただいたんです。そこで27年度の天王寺区運営方針の中で区長さんから説明ありましたが、経営課題2の日本一の文教「都市」をめざした人材育成、その中で天王寺区は今までに長年積み上げてきたそういう文教都市という実績がありますよね。そこでちょっと気になるのは、参考資料2の10ページの下のほうに要因分析。ここでその下に上記要因を解消するために必要なこと。その上にもう一つ、この現状・データから導かれる分析結果。これで特に上記要因を解消するために、解消というのをちょっとそうではなくて上記要因を例えばすごく学力だけとは言えませんが難しいんですけど、差が出るとしたらその差はできるだけ縮めていく。そして全体を上げていくという方針と解釈しているんですけども、この上記をいうたらその上の白い中に区内各学校が教育に対する意識の高い保護者、地域と連携してこれでこう書いていますけどね、これが上記要因の差が出てくるということではないですよ。

○水谷区長

これはどうしても全市統一的なそのフォーマット使って経営課題書いていますから、確かに角野さん言われたように字づらどおり読むと、何か変なニュアンスに受け取られるんですが、ちょっと口頭で補足しますと、課題にも2種類あるんですね。例えば治安が悪い、何でか今状況が悪いと。それを解消するために、こういうことをしましょうっていうのが、いわゆる課題だと思うんですけど。この天王寺区の教育について言えば、今ある程度いいと。それよりさらによくするためにはどういうことができるかという、積極的な意味合いでも課題になってきますんで、それはどうしてもこのフォーマットに当てはめてしまうとわかりづらい表記になってしまうという現実があるのかなと。確かに角野さんおっしゃったように、天王寺区学テの結果からしても、全国平均を上回る結果も出てますし、そういう状況にあるならば逆にじゃあ全国平均を上回ったと。これ単純計算で言えば、これ全国の中で真ん中より上ということが証明

されただけ。さらなるトップクラス入りを含めた上積みを図るにはどうしていけばいいかという課題も導かれましょうし、また特に私のように20代、30代のものが今ビビッドに感じているところなんですけども、学力的な頭のよさがあっても、大学卒業してつぶれてしまう子って今多いですよね。そうならないために、学力では表わされることのない頭のよさといいますか、生きる力を育むにはどういう取組ができるのかというところで、やはりまだまだ余地があると思いますので、ちょっとディベートですとか、キッズシティーですとか、なじみ薄い事業もいろいろやらせていただいていると思うんですけども、すぐには結果が出ないものが天王寺の子どもたちの未来への投資だと思ってですね、ちょっと今後も頑張らせていただけたらなと思っているところでございます。

○角野委員

基本的に全ての子どもって、潜在能力持っていると思っていますので、そういった意味で今おっしゃったようないろいろな機会を提供していくということが必要かと思っています。

それと真田幸村のことなんですが、非常にやはり戦略的に知将あるいは非常に戦に強いとか賢いとかいろいろ強調されて、これある程度仕方のないことなんでしょうけど、人間真田幸村というか、その人間性というものもやっぱりよく強調していただいて、ただ戦だけがわーっと強く出ないほうがいいのじゃないかと私は思います。

○水谷区長

そうですね、つい先日も歴史に詳しい方々と話していたら、真田幸村は非常にお酒が好きだとか、そういう人間幸村のやはりエピソードを多く私自身教えていただいたところがありまして。やはりどうしても戦というイメージを前面に押し出しますと、現代の平和な世の中を生きる人たちにとってはちょっと過剰な表現ではないのと、ちょっとおどろおどろしいなと思われることもあろうと思いますので。確かに角野さんおっしゃったように、より多角的な観点から幸村の魅力を浮き彫りにするという取組

が今後大河ドラマの始まりに合わせて大切なのかなと思っております。それはちょっと実行委員にも共有させていただいて、次の取組に活かしてまいりたいと思います。

○角野委員

ありがとうございます。

○栗谷議長

はい、その他ありますでしょうか。

飛田委員よろしくをお願いします。

○飛田委員

戦略委員の飛田と申します。運営方針の達成状況というところで、ちょっと私ら見て疑問に思ったんですけど、戦略の進行状況がbで、アウトカムの達成状況がAというのが結構あるんですけど、何か進捗bということはあんまり順調に進んでいないのに、成果だけは順調だよという。どうもこの意味がわからないのと、細かいこと中身見ると、未計測と書いてあってアウトカムはAと書いているところが結構あるんですけど、これは一体どういうことなのかお聞きしたい。

○水谷区長

後ほど担当からまた詳細にご説明しますが、今中間振り返り地点ということですので、具体的なこの成果を測るのが、これモニターアンケートとかになっているんですけども、まだ発送して回答をいただいてない時期であると。また事業が完全に完了しなくて、その途中経過にあるため、最終的な数字が出ていないというものもあります。それに加えて、ちょっと今回は成果を測るに当たって厳しめにつけよう。何でもうまくいってるいってるではなくて、本当に手法の大胆な再構築と、内容の大胆な再構築も視野に入れて、厳しめにつけようということでやっておりますので、bとかそういう評価になっているものもありますが。ちょっとその戦略とその進捗のところでそれぞれAとbというふうにちぐはぐになってるものもあつたりしますので、その辺についての微細を担当からご説明させていただきたいと思います。

○樋上 P D C A 担当課長

経営課題 1 を見ていただきたいのですが、例えばこれ区政会議とか、区民モニターですね。区民モニターなんかももちろん我々順調にやっておるのですが、評価結果で② i とかつくんですね。②とかなるとこれがどういう意味かという、これ本当に大変細かいのですが、取組は予定どおりやったと。区民モニター今年でしたら 4 回ありますよと、やったと。ただ目標は、未達成というのは、各回の回答割合、区民モニターの回答割合 30% にしますということですが、1 回目の区民モニターでしたら約 20%、19.2% なんですけれど、回収率が低いです。この②が一個でもつくと、評価結果がおのずと b というような評価にせざるを得ないと。これ大変区民の方、市民の方にはわかりにくいのですが。ただこの戦略に対して、この区民モニターというのは、取組としてはだめかといわれるとそうじゃなくて、区民モニターというのは無作為抽出させていただいた方に送って評価いただくということで。この取組自身は今後もやっていかなあかんということで、有効であって継続して推進とか、そういうふうな評価になっていくという形になります。戦略ごとで評価していくようなことがありますて、繰り返しになりますけど、例えば保育所の待機児童ゼロをめざすというのがもちろん目標にあるのですが、やはり実質何十人かの待機児童があつて、これがおのずと評価としては目標が未達成というようなことになる。そういうつけ方になってしまうということをご理解ください。

以上です。

○栗谷議長

南委員。

○南委員

失礼します。すみません。参考資料の 3 番の 6 ページの天王寺区ジュニアクラブの、経費内訳 26 年度となっておりますけども、一応 25 年のもこういう感じの内訳でいいんですかね。担当の方よろしくお願いします。一応 26 年度と書いてありますけど

25年度はどうやったんでしょう。

○北吉未来人材育成担当課長

ジュニアクラブの予算ですけれども、基本的には郵送代ですとか、コピー代そういった消耗品を基本としておりまして、その前の年度もおおむね同じようなものでございます。

○南委員

すみません。新しく入ったメンバーには帽子とかバッジとかそういうのは何も入っていないんですけども、あれはどっかの寄附なんですかね。

○北吉未来人材育成担当課長

本市の予算の中で購入をしております。

○南委員

どこにもそういう名目がないでしょ。

○北吉未来人材育成担当課長

コピー経費等の中です。帽子そのものはそんなに高額なものではありませんので。

○南委員

高額じゃなしに、そういう問題じゃなしに、毎年何人かは必ず入っているはずですよんね。僕天王寺ジュニアクラブ委員になっとるから、参加はなかなかできないんですけども。そういうふうな帽子とかバッジとか、あれ一番初めにつくったんですわね。それで新規の方には必ずお渡しして、これも差し上げてますやんか。もう返してくださいと言わんし、必ずそのバッジと帽子ですかね、お渡ししてますわね。ほんで今部員数が100何名ですかね。

○北吉未来人材育成担当課長

140名でございます。

○南委員

大体140名おられますわね。おられても結局今年8月に行った消防ですか、来た

子は10名？

○北吉未来人材育成担当課長

15名。

○南委員

15名ですわね。大人の方向何名行かれてましたかね。大人の方全部で。委員とその行政の方で行かれたのは。

○北吉未来人材育成担当課長

同じぐらいだと思います。

○南委員

結局ジュニアクラブ一生懸命やってもらうのわかるんやけど、一緒の数とかちょっとおかしいんじゃないかなと。僕自身子供会やっても、一応50人ぐらい子ども集まるんですよ、基本的に子供会として。行政がやってる方は必ず各小学校、子供会はたまたま大江とか天王寺小とかやったけど、味原なんかも子供会ないですよ、基本的に入っていないんですよ、登録してね。それでも一応53名の方が入ってくるんですよ。ほんで一応ジュニアクラブは中学校も入ってます。高津中学、夕陽丘中学、天王寺中学。その方々にたったそんだけしか来ないのに、こんだけの経費を与えておる。子供会としてはちょっとおかしいんじゃないかなと。ほんで来年度も一生懸命区長がそのジュニアクラブ頑張りますという話書いてあったけども、どないかしようという考え方はあるんでしょうかね。僕自身委員やっとして、こんなん言うていいんかどうかわからんけど。

○水谷区長

あの極めて重要な指摘だと思いますね。まずこの現実としてジュニアクラブの参加登録児童の中でも、アクティブユーザーとでも言うんでしょうか、やっぱり継続的に参加されている方と、ほとんど来ていない方との温度差というものがはっきりしてしまっている。また運営委員として携わっている中にも、南さんが自分からおっしゃっ

てくださったように、幽霊委員化、ごめんなさいね。そうなっちゃっている人もいると。やっぱりそうした中で実際に本気で関わっている方と、継続的に参加する子どもさんというのがどれぐらいいるのかということの明確化と、それに応じた行政としての関わり方というのがこれからしていけないといけないのかなと思います。ですので、今年中にあれ北吉さんもう送ったんですかね、継続意思があるかどうかの確認とか。

○北吉未来人材育成担当課長

それは年度末です。

○水谷区長

年度末。これから送ったりもしますし。ちょっとそういう形で数字ばかり膨れ上がって、実際実像見たらそんなに来ていないみたいなことがないように、ちょっとそこは意識して関わってまいりたいなというふうに思っております。またちょっといろいろと教えてください、そこについて。

あとコピー経費等の中に結局この帽子の経費とかが含まれているというんですけど、ちょっとこの書き方やっぱり、ほかが経費っていうので体言止めされてるんでしょう。ここだけ経費等とね。ちょっと何か誤解を招き得る書き方やなと思いますので、それは修正するように対処したいと思います。

○北吉未来人材育成担当課長

毎年帽子を買っているわけではなくて、在庫を使っているものもありますので、その辺はよろしくお願いします。

○南委員

すみません。幽霊会員なんで。一応会議時間帯が10時とか、昼ごろの1時からだと仕事があつてすみません。それだけ言うときます。

○栗谷議長

はい、河村委員。

○河村委員

南さんにちょっとお聞きしたいんですけれども、子育て愛あいフェスティバルと愛あいふれあいまつりとか、子供会の方は参加一緒にされたりとかはしないんですか。

○南委員

今回区民センター、去年と今年やったかな、一応対象は幼児いうのかな、そっちのほうは参加してないんですけど、一応10月に行われているんちゃうかな。それには子供会としてジュニアリーダーとして、各子供会、今回は五条小学校にこのジュニアリーダーかな、担当してもらって、毎年ジュニアリーダーが回るようにしてます。ほんでたまたま僕もジュニアの子がおって、ジュニアクラブに入っているんやけど、一応子供会の会長として動いているので、そっちのほうに五条子供会の今年はジュニアリーダーがいたんで、そこで手伝うた。毎年10月に行われるのは参加させてもらっています。たまたま何月でしたかね、子育てはじめのは。昔は8月の夏休みにやっとなんですけど、普通の日ね。それはちょっと難しかったけど、今は日曜日、土曜日とかそういうふうに業者の方が考えておられて、参加されるようになっているんですけど、子供会としては幼児のほうは参加しておりません。

○河村委員

子供会の方がこのジュニアクラブに重複で入っている方とかもやっぱりたくさんいらっしゃるんですかね、現状は。

○南委員

僕の知っている限り1人だけ。それも味原小学校です。昔五条の子どもは何人かいたんですけどもう皆卒業して、今はもう中学になっているのかな。そやからなかなか一時どうですかいう話もあったんですけど、ちょっといろいろありましてね。ちょっと子供会の子ども入ったら大人も一緒に手伝うてくれ言われたんで、それ違うやろいう話でちょっともめたことがあったんで、今は行政の方が一生懸命やっておられるんですけど、初めできたころは子供会もどうやいう意見はあったんですよ。その時は、何言われたか言うたら、子供会の親が引率してくれたらいいんちゃいますかと、そ

ういうふうな充て職みたいに感じになったら、ちょっと違うんじゃないかと。これは行政のほうでやっているんやから、行政が中心になって委員さんが動くもんじゃないでしょうかと。頭から子供会の親を当てにされたら困りますということで、ちょっと子供会が一步引いたこともありました、昔の話でね。ほんでこのジュニアクラブという団体ができたときは、何でできたかと。地域の方に今残る子が少ないと、実際に。せやからどないかして引っ張るような組織を作ろうということで、このジュニアクラブ作ったと思うんですよ。ほんで天王寺区にはどんなもんがあるかと、それを教えましょうというのが根本やったと。そこが何か知らん間に、海遊館行ったり何かいろんなところ行き出したから、ちょっと違うんじゃないかという意見は僕は委員会では言います。掃除もしましょう、大阪城掃除して何関係あんねんと、僕のイメージね。天王寺区のほう掃除すんねんやったらわかるけど、大阪城って中央区ちゃいますかと。もっと天王寺区をよくしようかないう話、初めはやったんですよ。だんだん代が変わると考え方が変わってきまして、昔のこと忘れてはるんか知らんけど、そういう感じが今ちょっとさみしいけどあります。

○河村委員

じゃあそのジュニアクラブが今根本からちょっと変わってきているということなんですね。

○南委員

ちょっとだけね。そやから変わってくるというか、ええ面もあるんですよ。いろんなこと今言うた災害とか、そっちのメインの子どもたちに真田丸公園でやったり。何も悪いとは言わんのよ。ええことやっているんだけど、地域のこと密着するようなリーダーを作しましょうということでやったと思うんが、何かだんだん僕の考え方とちょっと違うかなと。今の動きがね。ただそれだけです。

○北吉未来人材育成担当課長

未来人材育成担当の北吉です。ジュニアクラブの活動につきましては、地域の方か

らなる運営委員会でご議論いただいて、事業を決めておりますけれども、過去には海遊館など高潮センターとか行ったこともあるのは承知しております。基本的には将来の地域の担い手を育成していくと。長い目で見守りながら育成していくということで、区の世代をまたがって交流するようなイベントでの交流ですとか、留学生との交流、あと区内の施設などを知るということで活動の基盤は基本的には天王寺区内だというふうには思っております。

○南委員

今言われた国際交流センター、それも天王寺区にあるでしょいうことで今言われたように、あちらの方と交流するようになったんですよ。これ世話好きの事務やる方おられてしたんやけど、そういうのありますよいう話でやったんですよ。そやから自分自身がほんま天王寺区におっても使うことがない、交流センターなんて。国際交流センターってね。そやからそういうふうな第一歩としてやったんですよ。それもやっぱり天王寺区の中やから。

○水谷区長

私も一言だけ。ジュニアクラブ大切だと思うんですよ。僕がこれ作ったわけじゃない。僕が就任して僕がつくった事業もある中でジュニアクラブは僕が作ったものというよりも、これまで代々続いてきたものを従来踏襲してやっているという形なんです。やっぱりキッズシティとか子ども関係の他のイベントが、どちらかという子ども一人一人の個人の将来をどう切り開いていくのを助けるかという観点でつくられたものであるのに対して、どちらかというところのジュニアクラブは先ほどいみじくも南さんおっしゃったように、天王寺区の地域、この社会を担うための人材をどう育むかと。個よりも社会のほうに力点を置かれた事業ですから、前者とは明確に違うものとしてやっぱりこれからも続いていくことが一つ望ましいんじゃないかと思っております。ただその細かな取組の内容のときに、南さんが今言われたような区外のところに行くよりも、区内のところに行って活動してもらうほうがいいんじゃないのかとい

うのも非常に有意義なご意見だとも思いますし。それよりも何よりもまずやっぱり実際に継続的に参加されてない方も登録しているというところが、やっぱり課題としてあるんだと思いますので、ちょっとそこら辺実際の数字というものは明らかにして、取組内容も今後また南さんにもちょっと何とか参画いただいて、積極的にご意見いただいて決めていくのが望ましいんじゃないかと。

○南委員

参加できる時間帯に。

○水谷区長

そうですね。はい。

○南委員

すみません。

○栗谷議長

神崎委員お願いします。

○神崎委員

神崎と申します。施設管理を担当されている方に教えてほしいんですけども。光熱費、例えば電気代なんですけども、最近は電力の自由化ということで、安い事業所から電気を買うという方法も公的な機関においても契約が増えているというところ聞かれますけども。その区役所は電力の契約というのはどういう状態なんでしょうか。

○川畠企画総務課長

すみません。企画総務課長の川畠と申します。ページは23ページですね。61番のところに光熱費ということであげさせていただいていますので、それに関するご質問やと思います。区全体としては運営方針も掲げているんですけど、LED化の推進等なかなか予算がいりますので、進んでいないところもありますけれども、それを大きな目標として上げている部分もあります。今言っていた電気代のほうなんですけれど、それに関しては基本的には市の積算基準というのがありますので、それに

基づいて計上しておるといところです。実際の契約になりますと、基本的にその個別に各区が違う事業者でということになるかという、どちらかといいますと大阪市全体でどう事業者を選択していくねんという選択になろうかなと。それに基づいて積算基準単価が決まっておるとい状況ですので、今のところ大阪市の各区で個別で契約しておるところはないといった状況ですので、大阪市の中でもそういう検討はされておりますけれども、今のところそういった契約状況になっているところです。

○神崎委員

ということは、今関電と契約だということですか。天王寺区役所を含めまして、天王寺区に関する関連施設ですね、個別に新電力会社と契約すれば、一説によれば契約を変えるだけでイニシャルコストなしで、数パーセント削減されるというところもありますんで、ご参考になればというふうに思います。

それとあと一点なんですけども、62番の件なんですけど、保守点検費。ちなみにこの区役所というのは何年築なんですけど。

○川畠企画総務課長

平成8年に新築されておりますので、19年目に入っておりますでしょうか。

○神崎委員

保守点検費の内訳を見ますと、電気・設備・エレベーター・空調設備・消防設備これで26年度が年間約1,900万円ぐらいの数字が出ています。これが月平均になると大体200万弱になるんですかね。これ僕も庁舎の関係やっていますもんで、この辺のコストというのが大体概算でわかるつもりでおるんですけども、これはあまりにも高いと思っとなるんですけど。

○川畠企画総務課長

企画総務課長の川畠です。26年度の経費内訳ということで、高いんじゃないかというご質問かと思います。ある意味おっしゃるとおりという部分でありまして、27年度予算のところでかなり落とした形の予算要求とさせていただいておりまして、予

決の乖離が出ておる部分ではあります。大阪市の契約システムの中で予算配付をして、その後公募をして契約をするという部分で、一定の予算をまず確保しておかないといけないという部分もございますし、毎年消防点検等をやってるんですけれども、消防点検でひっかかってくる部分が結構年々増えておりまして、特に今年度なんかかなり、今日も来てもらっていたのですけれども。ですので庁舎管理、突発的な部分もありますので、一定そういったものが出たときも対応できるものは区民の方が利用いただく施設ですので、しておかないといけない部分もありつつも、予決乖離という部分でかなり27年度は落とす形で予算要求しておるところです。

○神崎委員

わかりました。

○栗谷議長

その他ございますでしょうか。飛田委員よろしくお願いします。

○飛田委員

何度もすみませんが、地域活動協議会の高齢化というお話が区長からあったんですけど、私も60過ぎたんでいい年はいいい年なんですけど、サラリーマンをしながら今こういうのに参加できるかというのと、多分40代の人は絶対無理だと思います。今の状況だと。何でかっていうと、平日の7時ぐらいから会合があったり、土日は多分地域の月に1回ぐらい地域の何かの行事があるという状態、あとその町内の仕事とかそういうの考えると、今現状のやり方でいったらどうしてもやっぱりある程度リタイアされた方でないと、区役所へも来れないし、いろんな情報もとれないし、各種会合にも出られないという状態なんで、何かそれは土曜日・日曜日にうまいことやるような方針を立てていただかない限りはちょっと無理だと思うんですけど、そういうことについてはどう思われますか。

○水谷区長

やり方から変えるか、現実から変えるかという、卵が先か鶏が先かみたいな議論は

常にあるんだと思うんですけど、現実としてやっぱり担い手の方がある一定の年齢層以上になってるという現実がございます。じゃあすぐに土日に会議あわせたから若い方が来れるようになるかというのと、そうした状況も多分ないんだろうなと思ってまして。やっぱりサラリーマンされている方とか、土日、体があくとはいえ、じゃあその土日というのは何に使うのっていったら、地域のためというよりも家族サービスであったり、自分の体休めるためだったり、そういう選択肢の中で生きていらっしゃるの。少しでも勤労世代の方も参加しやすいような説明会、時間帯にということならば、我々もなかなかその人件費等の問題があって、休日出勤ばかりさすがに増やすわけにいかないんで、そこら辺100%できるということは言いきれないんですけど、そういう配慮はしていないといけないのかなと思います。ただそういう配慮をしてもなおも直ちに若い世代の方というものが、地域活動の担い手としてそんな一朝一夕に増えて、若い人で地活協がNPO法人になって、独立、自由に活動みたいな、自立みたいなことに、そんなファンタジーのようにいくわけにはないというふうに僕は思っていますんで。そこは地道で本当に時間軸としても結構な年数かかるかもしれないんですけども、少しずつ若い方に呼びかけて行って、若い方に参加してもらって、地域の中核を担ってってもらうという取組が、ふだんの本当取組が大切になるんかなというふうに思っています。

○飛田委員

後ですね、どうしても多分行政側の予算の関係もあると思うんですけど、春というのがほとんど何もできないんですよ。予算決まってないって言われますし、なおかつ会計の締めみたいなのが5月ぐらいまでばたばたしてて、実際7月ぐらいからしか何かできなくて、7月になると地域の行事が一杯あって、なかなかゆっくり、もの考えている時間がない間に、また年度末こんな時期になったり、師走になったり、翌年度の1月になるとまた予算の話とか、残っている予算の消化という話になってしまって、何もできないというのが現状なんです。もうちょっと前倒しで何かできるよう

なことを考えていただければ、もう少し余裕をもってみんな回れるのかな。何か予算消化して、資料つくって、質問に答えてというんで一年間終わったような気はするので、その辺はちょっと何か考えていただきたいなというふうに思います。

○水谷区長

そうですね、予算計画つくって提出する手続が全市的に決められている部分もあるので、我々も意見いうものの、最終的には全市的な決定の中で決められるという事情はあるものの、飛田さん今おっしゃったように地域が本当にきゅうきゅうとした中で、活動金もらって活動に使って、また町会とかほかの行事も回して行ってというばたばたの中で生きているというのは痛いほど痛感します。今私として本当にできること、やらなければいけないこと何かって言ったら、先ほどもちょっと充て職の話ありましたけど、役所から地域のほうにこれやってっていうお願い事項があまりにも多いなと思うんですよね。例えば警察さんも係る話で申し訳ないんですけども、防犯の区民大会みたいな一つやるにしても、そういう準備の会議が一杯あって。じゃあ会議っていうけど結構予定調和に納まってみたいな感じで。やっぱりこれ変えるべきじゃないですかって言ったら、そこに来ていた委員さんも、もう大分簡素化してもええかもなという意見が大勢だったりして。でも長年続いてきたからやめるにやめられないみたいなそういう状況もあったりするので、そこをちょっとあえて矢面に立ってでも一個一個やめていって、地域の方々の余計な負担を減らしていくというのが、僕の任期後半の最後の努めなのかなと思っておりますので。全て飛田さん今おっしゃった要求に答えられることができないのがもどかしいところですけども、できる限り負担軽減というものは取り組みたいなと、取り組まないといけないなと今思っているところです。

○栗谷議長

三浦委員お願いいたします。

○三浦委員

すみません。失礼します。16ページのところの、ちょっと観点違うんですけど、天王寺蕪の件なんですけれど、私としましては、お聞きしたいのが小学校なんかで栽培がされているのかどうかということと、エレベーターに今日乗って12月6日あるというの私知ったんですけど、ちょっと認識が甘いかなと思うんですけど、もっともっとそれこそ難しいお野菜ですよ、この天王寺蕪ってとても。でも育てて育たないわけではないので、本当に蕪ってこの時期おいしいですし、学校のほうなんかはいかがなんでしょうね。

○水谷区長

天王寺小学校で栽培しているほかは確かなかったかなというように聞いています、学校という面では。動物園で栽培していたりとか、他区の一部のところで栽培しているという話は聞きますけれども。やはり区内で見れば非常に栽培もあまりされてないと思います。天王寺区役所としても、まさに区内からご寄贈いただいた水耕栽培で蕪栽培してみたりであるとか、今度12月に開催する蕪収穫祭というものをやらせていただいているんですけど、正直ちょっと私自身今後どういうふうに攻めていくかというところで思案している事情がございます。やはり今までちょっと収穫祭というイベント的にやってきてはいたんですけども、ちょっとそれも来年度に当たって、蕪をPRする取組はやめてしまうんじゃないかと、ちょっとやり方レベルからもう一回再構築しようかという話をこれからしていこうと思います。そのときの一つの方向性として、三浦さん今おっしゃったようにどこか協力してくださる学校さんがあれば、そのほうでちょっと子どもさんと一緒に育ててもらおうというのは、一つ攻め方としてはありなのかなと思っています。やっぱりどうしてもイベントをやっても、蕪の話と例えばコンサートとか組み合わせさせて、コンサートって何か蕪関係あるのって言ったら、あまり関係なかったりして、いまいち蕪の魅力が伝わりきらないというのもあるなど実感してますんで。ちょっとそのあたりまさに三浦さんのその食生活推進協議会さんとか、お知恵も賜りながら、どうやったら蕪の味覚、天王寺ならではの味覚というも

のを子どもたち中心に親しんでいってもらえばいいのかっていうのをちょっと来年度に向けてちょっと考えてまいりたいなと思います。学校で協力求めて植えてもらうというのは、一つすばらしいアイデアだと思います。

○三浦委員

ありがとうございます。区役所にあった水耕栽培はどこいったんですか。

○水谷区長

一応置いているんですけどね。あれも結構世話が大変なんで、この間収穫して今ちょっと機械を休ませているところであります。

○三浦委員

ありがとうございます。

○栗谷議長

はい、その他ないでしょうか。

はい、田淵委員

○田淵委員

あの先ほど区民モニターの話、無作為抽出でやっているという話あったんですが、これ、これで極めて妥当なところだと思うんですけども、さっき回答率が21%。これやっぱりちょっと数字的には少ない。データとして信憑性というか、そこら辺がかなり希薄なものになってくると思うんですね。そこで全てが全てやないですけど、ある程度公募というか、公募モニターみたいなことも考えてもええんじゃないかと思うんですが。

○水谷区長

これ統計の専門的見地から話しますと、基本的に調査手法というのは性質が違うものを複数用意して、それを突き合わせる形で出てきた結果が一番実像に近いというふうに思っているんですね。だから無作為調査で調査をかけると、大体20%、回収率も低くなります。例えば電話での無作為調査なんかですと、1,000件かけて1件の

人が最後まで回答してくれているとか、そんなレベルです。0.1%と。そういう人たちってどういう人ですかって言ったら、これ人から頼まれたら忠実にそのやり方を守ったりとか、素直に感動してくれる人です。素直な人のデータばかりで、例えば賛成が何十%とか出ても、それは全体を正確に反映しているというよりは、ちょっと差し引いた現実としてとらえないといけない部分あるわけですね。区の事業の調査という目を見たときに、必ずしもそういう行政に対して素直に反応してくれるばかりじゃないじゃないですか。7万6,000人区民。どちらかというと冷ややかに見ている人もいれば、なかなか行政に対して無関心の方もいると。そういう方からいただいたご意見も突き合わせて区民の声って一体どうなっているのかというのを見つめるのが大切な作業だと思っておりますので、モニターアンケートの結果だけを金科玉条とするのではなくて、つなげ隊で得られた意見ですとか、区政会議でこのように意欲ある、まさに自分から手を挙げてきた方々、団体を背負っていらっしゃる方々から出てきた意見を突き合わせて、全体としてどういう意見が見えているのかというところで、施策の判断をしてまいりたいなと思っております。

○栗谷議長

はい、その他河村委員。

○河村委員

ここに載っていないんですけれども、いつも区役所にきたら皆さんの自転車を入り口に停められると思うんですけれども、裏に駐輪場があると思うんですけれども、やっぱり入り口から近いところで皆さん停められると思うんですね。それについて駐輪場を整備したりとかは考えてらっしゃらないのかなと。

○水谷区長

考えてないです。もう少し補足するとスペース的にちょうど公示とかの掲示板がありますよね。だからあそこに自転車、どうしても置いちゃうと見えなくなっちゃったりするとか。ちょっとロータリーみたいになっていますので、そのスペースが狭くな

ってしまって、車いすの方とかなかなか入るのにも困難になってしまうというのがあるので、裏側に駐輪場置かせていただいているんですけども、これ別に天王寺区のみならず、どこの区役所もそうですね、行かせていただいているとやっぱり駐輪場じゃないけれども区役所の入り口前に皆さん停めてると。これも一朝一夕に改善できることかと言えはなかなか難しいところあるんですけども、どうしてもあまりにも、まだちょっとだだ一っと自転車ばかりになった状況というのは僕が就任してから見てはないんですけど、そういうちょっと度を超えた場合とか指導させていただくとか、そういう臨機応変な形で対応していけたらいいんじゃないかなと思っております。

○栗谷議長

はい、その他ございますか。

原田委員をお願いします。

○原田（恵子）委員

いつもありがとうございます。16ページ、43番お寺のまちでキャンドルナイト。それ宣伝も兼ねてなんですけど、11月28日の金曜日と、29日の土曜日天王寺七坂のほうでありますので、ぜひ来ていただきたいということと。これ3年ぐらい前に初めてしてくださって、その時は1回目が2月だったので人が少なかったんですけど、だんだんちょっと人が増えてきて、これ廃止というのがちょっと悲しいなと思ったんですけど、下にシティ・プロモーションアクショングループと一緒にまた違う形でと書いているんですけども、このキャンドル自体は残るんですか、それとももうキャンドルはしなくって、また違う形になるのか教えていただけたら町会としても関わっていますし、やっとな町会もみんな協力してしようって気持ちなのがのっているところなので、教えていただきたいと思います。

○水谷区長

結構この件については、地域の方、あるいは協力いただいている寺社仏閣の方ともお話をさせていただいております。結構数年前、私の就任前から続いている事業に思

っておりますけども、どうしても行政主導的に始まってしまって負担やなという地域の声もあったりとかして、必ずしも強力に続けないといけないという段階ではないのかなというふうに思っております。ただもう少し細かく見ますと、そういう声がある一方で、例えば個別のお寺さんが行政に頼らず自分でろうそく出して、軒先もライトアップしていたりとか。そういう民間主導の動きもありますので、せっかくこういう民間主導の動きが始まっておりますから、行政でも1から10まで本物のろうそくまで買って、職員休日全員出して一個一個並べさせるというよりも、そういう民間のほうで湧き上がってきている動きを支援するという形に移行する段階ではないかなというふうに思っています。シティ・プロモーションについてはちょっと人員も予算も限られていて、あれもこれもというよりは、やはりこれから幸村とかで仕掛けないといけないほかの項目もありますんで、ちょっとそこで全部役所で1から10まで抱えるというよりは、自主的にやっていただけたところはもうそことご相談してやっていただくとか。ちょっと適切な官民の連携のあり方というのをちょっと築いていくことができないかなと思っております。集客については、結構私も毎年寄らせていただいておりますけども、今原田委員がおっしゃったように神戸とか、奈良のほうからも多くの方が訪れて夜景を楽しんでいただいているのかなと思います。

○栗谷議長

はい、その他ないでしょうか。

田中委員。

○田中委員

こちら4ページの10番なんですけども、天王寺区子育てナビゲーションです。このスマホアプリ版なんですけども、初年度はいろいろシステムとか設計とかいろいろかかるのはわかるんですけども、344万。これ2年目以降は203万、月17万程度かかるみたいなんですけども、この辺は一応値段としては妥当なんではないでしょうか。

○水谷区長

そうですね。来年度に向けての業者等との今交渉調整しておりますけれども、区のほうにそのITの専門の人材というものも限られておりますので、市役所のほうの総務局IT統括課でありますとか、区のほうで佐賀県とかそういった自治体でCIOという形でIT分野の補佐官歴任された川島宏一先生と著名な先生がおるんですけれども、そういう方もアドバイザーで入っていただいているので、私もIT嫌いじゃないですのでそういうブレーンの方からもお知恵いただいて、業者との調整には当たっているという状況でございます。一定の金額かかりますけれども、ちょうど今週末にこのアプリに関して第一段階のプレリリースをさせていただこうと思っております。アプリつくったはいいけど、結局ダウンロードもされずに塩漬けになってしまっているアプリというのがほかの区のものとか、ほかの自治体のものでも多くございます。そういうのもよくよくわかっておりますので、実際に対象の方に使っていただいて、本当にこれは利便性があるものなのかどうなのかというのをちょっとチェックいただく機会として、ちょっと今週末プレスリリース出すんですけども、保護者の方々に集まってもらって中間版をちょっと触ってもらって、そこでまた出たご意見を最終版に活かすみたいな。そういうちょっと取組を来月実施させていただこうと思っております。そういうことをすることによって、実際に保護者の方から知りたい情報が確実に得られるアプリというものがつくられますし、それをするによってこの初期投資340万と、ランニングで200万という数字も妥当な数字だというふうにご評価いただくことができるんじゃないかなと。今ちょっと開発に注力したいなと思っております。

○栗谷議長

はい、その他ないでしょうか。

なければ区長私から一言お願いします。すみません。

9月からが即興型英語ディベートスクール、うちの末娘も中学3年生の女の子なんですけど参加させていただいておりまして、非常に楽しく毎回参加させていただいてお

ります。運営していただいているヒューマンブレーンさんという専門の業者さんですが、毎回終わった時点で次の日翌日ぐらいに自宅に電話をいただいて、どんな状態だったのか非常に詳しく説明をしてくださいます。前回は娘から話聞きますと、今回ベストスピーク賞か何かもらってんという、その日のうちにすごく上達したような感じでも受けとめられましたけれども。一番私うれしかったのが、中間テストで学校側が模範解答というのが3例4例を出してくれるんですが、娘が回答した中に一つだけ模範解答の中に一つ回答があってそれがすごく喜んでいまして、今までそういうことがなかったのが自身にもすごく実感できて、お父さんとやってよかったわということを書いてくれまして、非常に区長が先を見据えていい取組をいただいているんだなというのをほんま実感した次第です。娘もいろいろ目標も持っておりますけども、期間限られていますけども、非常に横のつながりもできて非常に喜んでおります。今後とも一つよろしくをお願いします。

以上です。

その他ありませんでしょうか。なければそろそろ。よろしいでしょうか。次に移りたいと思います。

それではですね、区長もう後よろしいですか。

○水谷区長

はい。

○栗谷議長

そうしましたら、最後になりますけども、本日まで出席いただきました足高議員、そして福島議員より一言まずいただきたいと思います。それでは足高議員一つよろしくお願いいたします。

○足高委員

皆さんこんばんは。本当に今日いろんなご質問をされて、なかなか行政側から皆さんが思うてはる回答が返ってきてないかのように聞こえました。なかなか大変難しい

問題なんですけど、あんまり長くお話はしてはいかんのでしょうか。例えば市バスがなくなったお話を区長からもお聞きになったと思いますけど、あれは本来は大阪市の市政改革室が各区にそれぞれの区の意見を聞いて、なくすかなくさないかということがしょっぱななんです。全部見直しなさいということではない。だから本来でしたら天王寺区の皆さんの声を聞いて、残るものは早く残っていた。だからそのところにちょっと誤解があったんで、今区長一生懸命頑張っておられますけども、ぬかりがあったことだけが時期が遅れた。で一応まだ残っているものがあるというのを皆さんもよくご理解をいただいたら、もうちょっと区役所も一生懸命やっていただけたら。例えばさっきおっしゃった下寺町のほうなんかでも、もうちょっと早く来年の４月には路線ができる可能性はあるわけですから、その辺の努力をもうちょっとしていただきたい。それと皆さんが予算のことをいろいろ２７年度ですけど、これ本当議論しようとしたら２６年度の分とどんだけ違うんやと。今個々に一つずつでていますけども、本来でしたらもうちょっとそれぞれ専門家の方いてはりますから、その辺を照らし合わせて本当にどこがいらんねんと。言葉悪いけども、例えば区長さんがパフォーマンスしてるとは言いませんけど、そこにかかっているものを少し横に譲ればできるものがあるんじゃないかというご指摘が逆に皆さん方から今日出るかなとはちょっと思ってたんですけども、その辺はちょっと個々どうしても小さい世界という話になってるようなんで、その辺寂しいですけども、もうちょっと皆さんから厳しいご質問いただいて、予算というのはどうあるべきなのかという議論がもっとできれば、もっと２７年に向けて新しい仕事も入れながら、従来からの仕事もいかして、すばらしい絵がかけたんじゃないかなと思うてます。これまだ時間ありますから、これから皆さんの思いをしっかりと言うていただくことが必要やと思いますので、今日はそれぐらいのお話にして。一杯言いたいことはありますけど、私は皆さんに変わって質問するわけにもいきませんので、そういう流れにさせていただければいいじゃないかと思いますが、よろしく願いいたします。

○栗谷議長

では福島議員お願いします。

○福島委員

本当に詳細な議論、さすが皆さん方が長年この区政会議されていらっしゃるかなと思います。今回のすみません参考資料3というので、これもたくさん事業細かく評価してあるんですけど、もちろんこの評価に基づいて今後どうするかということを決めているというものなんですけれども、個別のことじゃなくて、10個ぐらいまだ目標の達成状況が未測定というのが10個ぐらいあるんですね。ただまだそれはしていない事業もあるのではないかなと思うんですけども、結果縮小しても継続しているものもあるので、これは役所のシステム上しょうがないと思うんですけど、もしかしたらやってみたらあんまり必要性がなかったというものでも、継続せざるを得ない現状というのは役所のシステム上しょうがないのかなと。だから今日も皆さん方もその部分については未測定なんで、意見も言いにくい状況があったと思います。あと細かく言えば、その例えば目標達成した、例えば20ページにスポーツフェスタというのが53番であるんですね。これ目標が初めて来場した人の割合40%以上という目標があるんですけど、実際にはそれを超えて50.8%だったと。それ以外の利用者の声とかそれも特に悪い声はなかったけれども、結果としては縮小になっていると。それはほかにもいろいろ理由があると思うんですけど、ちょっとここに書いている理由の中では、なぜ少なくなったのかなというのがわかりにくい部分があるかなというふうに思いました。だから今日個別でもなぜ減ったかというのがわからない部分もあって、それは全体が減ったからだということもありましたけれども、できるだけ当事者もしくは第三者にももう少しわかりやすくできたらありがたいかなというふうに思いました。ありがとうございました。

○栗谷議長

足高議員、福島議員ありがとうございました。

これで議題については終了をさせていただきます。

ここで区役所に進行をお返しいたします。よろしくお願いします。

○樋上 P D C A 担当課長

栗谷議長ありがとうございました。

また委員の皆様、多くのご意見いただき、まことにありがとうございました。

それでは以上をもちまして、平成 26 年度第 2 回天王寺区区政会議を終了させていただきます。

お忘れ物のないようお気をつけてお帰りください。ありがとうございました。

— 了 —